平安時代

名前

問1　平清盛が、平氏の経済的基盤を強化するために行った経済政策として、正しい事実はどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）

1. 博多の港に「金印」を保管する施設を作り、中国の漢（後漢）から金や絹を輸入した。
2. 堺や博多の商人に特権を与え、各地の関所を撤廃して楽市・楽座などの商業振興を行った。
3. 長崎の出島にオランダ商館を移し、幕府が貿易の利益を独占する体制を整えた。
4. 大輪田泊（現在の神戸市）を修築し、中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に推進した。

問2　平清盛が行った政策と、その地理的な関連性について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2019年 福島県公立入試 類似）

1. 瀬戸内海の航路を整備するとともに、現在の神戸市付近にある大輪田泊を修築して、宋との貿易の拠点とした。
2. 日本海側の航路を重視し、現在の石川県付近にある港を拠点として、大陸との間で北方貿易を盛んに行った。
3. 九州北部の博多のみを唯一の貿易港として限定し、外国の商人が瀬戸内海へ進入することを厳しく制限した。
4. 長崎に人工の島を築き、そこを窓口として宋の商人と限定的な取引を行う制度を整えた。

問3　平安時代中期、藤原道長や頼通の時期に全盛期を迎えた「摂関政治」において、藤原氏が長期間にわたって政治の実権を握り続けることができた手法として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 遣唐使の廃止によって外国の影響を排除し、藤原氏独自の法律を定めて朝廷の官僚機構を支配する手法
2. 墾田永年私財法を背景に広大な荘園を集積し、天皇から経済的に完全に独立した政府を樹立する手法
3. 地方の有力な武士団を直属の軍隊として組織し、圧倒的な武力によって朝廷内の反対勢力を排除する手法
4. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法

問4　平安時代中期、摂政・関白として権勢を振るった藤原頼通は、京都の宇治に平等院鳳凰堂を建立しました。池の中央に配された阿弥陀堂が、翼を広げた鳥のような優美な形状をしているこの建築は、当時の人々のどのような願いを現世に表現しようとしたものですか。（2023年 富山県公立入試 類似）

1. 大陸との貿易による利益を背景に、最新の建築様式を貴族たちに誇示するため
2. 禅宗の教えに基づき、座禅などの厳しい修行によって悟りを開くため
3. 阿弥陀仏の住む極楽浄土を現世に再現し、死後の救済を願うため
4. 武士の勢力に対抗するため、将軍としての政治的な権威を象徴するため

問5　平安時代末期の東北地方において、奥州藤原氏が平泉に中尊寺などの寺院を相次いで建立した背景や目的として、最も適切な説明はどれか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）

1. 遣唐使が持ち帰った最新の大陸文化を普及させ、朝廷に対して自らの権力を誇示しようとした。
2. 仏教の浄土信仰に基づき、前九年の役や後三年の役などの戦乱で亡くなった人々を供養し、平和な理想郷を築こうとした。
3. 北方の敵対勢力に対する軍事拠点とするため、要塞としての機能を備えた寺院を配置した。
4. 源平の合戦で勝利した源頼朝を歓迎するため、鎌倉の武家文化を先取りして導入した。

問6　平安時代後期、東北地方の平泉を拠点として三代にわたって栄え、金箔で覆われた豪華な仏堂である中尊寺金色堂を建立するなど、独自の仏教文化を繁栄させた一族を何と呼びますか。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 奥州藤原氏
2. 平氏
3. 北条氏
4. 足利氏

問7　平安時代末期、平清盛が広島県の厳島神社を大規模に整備した背景には、海外との貿易を重視したことがあります。このとき清盛が航海の安全を祈願して行った貿易の名称と、社殿に採用された当時の貴族の住居様式として正しい組み合わせはどれか。（2025年 東京都公立入試 類似）

1. 日宋貿易 ・ 寝殿造
2. 日宋貿易 ・ 書院造
3. 日明貿易 ・ 寝殿造
4. 日明貿易 ・ 書院造

問8　平清盛が行った政治や対外政策に関する説明として、当時の経済的背景や具体的な取り組みを正しく述べたものはどれか、次の中から選んでください。（2019年 三重県公立入試 類似）

1. 御家人の領地を保証する代わりに軍役を課す封建制度を確立し、大陸との貿易は博多のみに限定した。
2. 遣唐使を廃止することで、日本独自の国風文化を発展させることを優先した。
3. 瀬戸内海の航路を整備するとともに、摂津国の港である大輪田泊を改修し、大型船の入港を可能にして貿易を拡大させた。
4. 元軍の侵攻に備えるため、北九州の沿岸に防塁を築き、大陸との貿易を一時的に中断した。

問9　最澄が比叡山に延暦寺を建立した背景にある、仏教と国家の関係性についての説明として最も適切なものはどれですか。（2018年 和歌山県公立入試 類似）

1. 武士の台頭を抑えるために、独自の軍事力を維持しようとした。
2. 仏教の力で国家を災いから守り、平和を維持しようと考えた。
3. 現世での利益を得るために、呪術的な儀式を最優先した。
4. 貴族一人ひとりの私的な繁栄を祈祷することを最大の目的とした。

問10　日本の古代文学における表記方法の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、奈良時代に編纂された歌集を『万葉集』、平安時代初期に編纂された歌集を『古今和歌集』とします。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 万葉集ではかな文字を用いて和歌が綴られているが、古今和歌集ではすべての和歌が万葉仮名のみで記されている。
2. 万葉集は漢詩のみを収録した作品集であり、古今和歌集から初めて日本語の音を書き写す試みが始まった。
3. 万葉集と古今和歌集はどちらも、中国の漢字を本来の意味でのみ使用して、日本語の音を表現しようとした。
4. 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。

問11　平清盛は、武士として初めて太政大臣という高い地位に就くだけでなく、かつて藤原氏が行った摂関政治に近い手法を導入して権力を強めました。清盛が政治の実権を握るためにとった具体的な行動として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 全国の武士に対して土地の所有権を保証する代わりに、天皇を廃止して清盛自身が新しい「王」として君臨することを宣言した。
2. 武力を用いて貴族をすべて朝廷から追放し、武士だけで構成される新しい合議制の政府を京都に樹立した。
3. 娘を天皇の后（きさき）として嫁がせ、その間に生まれた子を天皇として即位させることで、天皇の外祖父（外戚）という立場を得た。
4. 天皇から征夷大将軍の職を授かり、鎌倉の地に独自の軍事政権を組織することで、朝廷の支配から完全に独立した。

問12　平安時代の出来事について、貿易や文化の観点から説明した文として正しいものはどれか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 徳川家康が鎖国体制を完成させる一方で、オランダや清との限られた貿易を長崎の出島で継続した。
2. 平清盛が兵庫の港を整備して日宋貿易を推進したほか、藤原頼通によって平等院鳳凰堂が建立されるなど、独自の文化や交流が見られた。
3. 足利義満が明との貿易を開始し、京都の北山に金閣を建立して、公家文化と武家文化を融合させた。
4. 聖徳太子が小野妹子を遣隋使として派遣し、大陸の進んだ制度や仏教を積極的に取り入れた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大輪田泊（現在の神戸市）を修築し、中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に推進した。	平清盛は、武力だけでなく経済力によって権力を維持しようと考えました。当時、中国大陸を支配していた宋（南宋）との貿易（日宋貿易）に目をつけ、大型船が入港できるように現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に改修しました。この貿易を通じて、日本からは金や硫黄などを輸出し、宋からは宋銭（銅銭）や絹織物、陶磁器などを輸入しました。特に宋銭が国内に大量に流入したことは、後の日本の貨幣経済の発展に大きな影響を与えました。
問2	答え 1 瀬戸内海の航路を整備するとともに、現在の神戸市付近にある大輪田泊を修築して、宋との貿易の拠点とした。	平清盛は、自身の領地があった西国と都を結ぶ瀬戸内海の交通網を重視しました。音戸の瀬戸（広島県）などの難所を工事し、さらに現在の兵庫県に位置する大輪田泊を改築することで、宋の船を九州からさらに奥の近畿地方まで引き込み、物流の効率化と利益の独占を図りました。博多は平安時代を通じて重要な拠点でしたが、清盛は大輪田泊を重視した点が特徴的です。
問3	答え 4 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法	藤原氏は、一族の娘を天皇の后（きさき）として送り込み、その間に生まれた皇子を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父である「外祖父（がいそふ）」という地位を確立しました。この血縁関係を背景に、天皇が幼少の間は「摂政」、成人してからは「関白」という官職に就くことで、政治の決定権を独占しました。武力や独自の法律ではなく、天皇との個人的なつながりが権力の源泉であったことが特徴です。
問4	答え 3 阿弥陀仏の住む極楽浄土を現世に再現し、死後の救済を願うため	平安時代後期には、仏教の教えが衰える「末法思想」が広まり、人々の間で死後に救済を求める浄土信仰が流行しました。藤原頼通は、この信仰に基づいて阿弥陀如来を本尊とする平等院鳳凰堂を建立しました。庭園の池の中に建てられたその姿は、阿弥陀仏が住む理想郷である極楽浄土を、地上に視覚的に再現することを目指したものです。選択肢にある禅宗は鎌倉時代に広まったものであり、貿易利益や将軍の権威といった要素もこの建築の本来の目的とは異なります。
問5	答え 2 仏教の浄土信仰に基づき、前九年の役や後三年の役などの戦乱で亡くなった人々を供養し、平和な理想郷を築こうとした。	奥州藤原氏の初代である清衡は、凄惨な戦乱（前九年の役・後三年の役）で家族や多くの人々を失いました。その経験から、敵味方の区別なく死者の霊を慰め、この世に仏教的な平和な社会（浄土）を具現化することを願い、中尊寺の建立を進めました。金色堂はこの精神的な象徴であり、当時の人々が抱いた「死後は極楽浄土へ行きたい」という強い願いが反映されています。
問6	答え 1 奥州藤原氏	奥州藤原氏は清衡・基衡・秀衡の三代にわたり、現在の岩手県平泉を中心に東北地方を支配しました。中尊寺金色堂は、当時東北で産出された豊富な金を使用した建築物であり、その豪華な装飾は一族の強大な経済力と、仏教による平和な国づくりを目指した思想を象徴しています。
問7	答え 1 日宋貿易 ・ 寝殿造	平清盛は、大輪田泊（現在の神戸市）の修築などを行い、中国の宋との間で行う「日宋貿易」を積極的に推進しました。厳島神社は瀬戸内海の航路上の要所に位置していたため、貿易の安全を祈願する対象として重要視されました。その際、当時の貴族の住居様式である「寝殿造」を社殿建築に取り入れたため、海上に浮かぶような華麗で独特な空間が形成されました。書院造は室町時代以降に発達した様式であり、日明貿易は足利義満の時代に始まったものであるため、時代背景が異なります。
問8	答え 3 瀬戸内海の航路を整備するとともに、摂津国の港である大輪田泊を改修し、大型船の入港を可能にして貿易を拡大させた。	平氏は瀬戸内海の制海権を掌握しており、そのルートを安全に航行できるよう環境を整えました。さらに、兵庫の港である大輪田泊（現在の中央区・兵庫区付近）を大規模に改修することで、大陸からの大型の商船を直接引き入れ、膨大な富を得ることに成功しました。
問9	答え 2 仏教の力で国家を災いから守り、平和を維持しようと考えた。	最澄が比叡山に拠点を構えた背景には、鎮護国家の思想がありました。これは仏教が国家の保護を受ける代わりに、仏教の教えや修行によって国を安定させるという役割を担うものです。平安京の北東という方位に建立されたことも、都を災いから守るという意図が含まれていました。当時の仏教は、個人的な欲望を満たすための「現世利益」や特定の階級の繁栄よりも、まずは国家全体の守護という公的な性格が重視されていました。
問10	答え 4 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。	奈良時代の『万葉集』では、まだ日本独自の文字がなかったため、漢字を音として利用する「万葉仮名」で和歌が記録されていました。その後、平安時代に漢字を簡略化した「かな文字」が考案されたことで、平安時代初期の『古今和歌集』では、より自由で柔らかな表現が可能になりました。
問11	答え 3 娘を天皇の后（きさき）として嫁がせ、その間に生まれた子を天皇として即位させることで、天皇の外祖父（外戚）という立場を得た。	平清盛は、平安時代中期に藤原氏が権力を独占した「摂関政治」の手法を模倣しました。自身の娘である徳子（建礼門院）を高倉天皇の后とし、その間に生まれた安徳天皇をわずか数歳で即位させることで、自らは天皇の母方の祖父（外戚）として政治に大きな影響力を及ぼしました。これは武力による支配を背景にしつつも、形式的には公家社会の伝統的な権力掌握術に従ったものです。
問12	答え 2 平清盛が兵庫の港を整備して日宋貿易を推進したほか、藤原頼通によって平等院鳳凰堂が建立されるなど、独自の文化や交流が見られた。	平安時代は、藤原氏による摂関政治が行われていた時期に平等院鳳凰堂に代表される国風文化が発展し、その後、平安末期には平清盛が日宋貿易を通じて大陸との交流を活発化させました。選択肢にある足利義満は室町時代、聖徳太子は飛鳥時代、徳川家康や鎖国は江戸時代の出来事であり、時代区分を正確に把握することが重要です。